



第104回全国高等学校野球選手権秋田大会の開幕を迎えて

秋田県高等学校野球連盟
会長 尾形 徳昭

日々強まる日差しに梅雨明けが間近であろうことが感じられます。新型コロナウイルスの感染拡大はやや落ち着いて参りました。晴れ舞台の準備が整い、いよいよ7月8日から、今年もまた、あこがれの甲子園を目指す大会が始まります。待ちに待ったこの日を前に、選手の皆さんの胸の高鳴りは、最高潮に達しているのではないのでしょうか。

今の高校3年生が1年生だった2年前、新型コロナウイルスの影響で甲子園大会が中止になりました。以後もいろいろな制約を受けながら、皆さんは努力を続けてきました。自分たちのできることを模索し、できることを精一杯やってきたことと推察します。どうかこれまで仲間と一緒に培ってきた力と技と精神力を、思う存分発揮してください。高まる気持ちを抑えて準備を怠らず、勝負の一瞬一瞬に全力を傾けてください。試合は皆さんのこれまでの努力の成果を試し合う場です。相手より力、技、精神力が少しでも勝るよう頑張ってください。そして、残念ながら勝ちに恵まれなかったしてもやりきったと言えるように、また、相手チームの選手をリスペクトできる心を持ってください。相手チームがあったからこそ自分たちは試合ができ、これまでの練習の成果を十分発揮できたのですから。

高校野球は教育の一環だといわれます。日本学生野球憲章の前文の中には、そのことに触れて次のようなことが書かれています。「学生たることの自覚を基礎とし、学生たることを忘れてはわれらの学生野球は成り立ち得ない。・・・(中略)・・・元来野球はスポーツとしてそれ自身意味と価値を持つものである。しかし学生野球としてはそれに止まらず試合を通じてフェアの精神を体得する事、幸運にも驕らず悲運にも屈せぬ明朗強靱な情意を涵養する事、いかなる艱難をも凌ぎうる強靱な身体を鍛練する事、これこそ実にわれらの野球を導く理念でなければならない。」と。甲子園を目指して日々活動してきたことは、目には見えないかもしれませんが、皆さんに素晴らしい力を与えてきたものと確信しています。決して平坦な道のりではなかったと思います。転んでは立ち上がり、また転んでは立ち上がり、その繰り返しが大きな力を育んできました。互いにその力を発揮し合ってください。

野球ができることは、他のスポーツ同様素晴らしいことだと思います。好きでもできない人や、やりたくてもできない人がいます。夏空の下、素晴らしい球場でたくさんの応援を背に思う存分野球ができることに大きな喜びを感じてください。そして、その背景には多くの人たちからの支えがありました。チームメイト、クラスの仲間、先輩や後輩、先生、家族、地域の方々、からたくさんの応援や指導をしてもらいました。感謝の気持ちを忘れず、精一杯プレーしてください。皆さん、きっと拍手を送ってくれると思います。

今大会は1回戦から有観客で行います。コロナ禍ではありますが、夏の高校野球を楽しむにしていた皆様には、高校球児の澁刺としたプレーを思う存分御覧いただきたいと思えます。新型コロナウイルス感染防止に、どうか御協力をお願いします。

結びに、今大会の開催にあたりまして、御尽力いただきました秋田県野球協会審判部の皆様、球場関係者、秋田県医師会、各報道機関の皆様など全ての皆様に心より感謝と御礼を申し上げ、開会の挨拶といたします。

2022年7月7日